

【 復活のトロパリ 第1調 】

きゅ うせ いしゅよ、イ ウ デ ヤ の ひ と は か を
 救 世 主 人 墓
 ふ うじ て、へ い そ つ なん ぢ の い さ ぎ よ き み を
 封 兵 卒 爾 潔 軀
 ま も る と き、なん ぢ は み っ か め に ふ く か つ
 守 時 爾 三 日 目 復 活
 し て、せ か い に い の ち を た ま え り。
 世 界 生 命 賜
 ゆ え に て ん ぐ ん は なん ぢ い の ち を ほ ど こ す の
 故 天 軍 爾 生 命 施
 しゅ に よ べ り、ハ リ ス ト ス よ、こ う え い は
 主 呼 光 榮
 なん ぢ の ふ く か つ に き し、こ う え い は なん ぢ
 爾 復 活 歸 し 光 榮 爾
 の く に に き す、ひ と り ひ と を い つ く し む
 國 歸 獨 人 慈
 しゅ よ、こ う え い は なん ぢ の お も ん ぱ か り に
 主 光 榮 爾 慮
 き す。
 歸

【 顯榮祭のトロパリ 第7調 】

ハ リ ス ト ス か み よ、なん ぢ は や ま に お い て へ ん
 神 爾 山 於 變

よ う し て 、 な ん ぢ の も ん と に そ の ち か ら に か
 容 爾 門 徒 其 力 称
 な い て な ん ぢ の こ う え い を あ ら わ し た ま
 爾 光 榮 顯 給
 え り 。 ね が わ く は し ょ う し ん ぢ ょ の き と う に よ
 願 生 神 女 祈 禱 因
 り て 、 わ れ ら つ み な る も の に も な ん ぢ の え
 我 等 罪 者 爾 永
 い ざ い の ひ か り は か が や か ん 。 ひ か り を ほ ど
 在 光 輝 光 施
 こ す し ゅ よ 、 こ う え い は な ん ぢ に き す 。
 主 光 榮 爾 歸

【 顯榮祭のコンダク 第7調 】

こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん に き
 光 榮 父 子 聖 神 歸
 す 。
 ハ ス ト ス か み よ 、 な ん ぢ が や ま に お い て へ ん よ う
 神 爾 山 於 變 容
 せ し と き 、 な ん ぢ の も ん と は い る る に か な
 時 爾 門 徒 容 称
 い て な ん ぢ の こ う え い を み た り 、 こ 此
 爾 光 榮 見

れなんぢのじゅうじかにていせらるるをみて、
 爾 十 字 架 釘 見
 くるしみのじゅうなるをさとり、なんぢが
 苦 自 由 悟 爾
 じつにちちのこうえいなるをせかいにつた
 實 父 光 榮 世 界 傳
 えんためなり。
 爲

【 復活のコンダク 第1調 】

いまもいつもよよに、アミン
 今 何 時 世 世
 しゅさいよ、なんぢはかみなるによりてこう
 主 宰 爾 神 因 光
 えいのうちに はかよりふくかつし、せ世
 榮 中 墓 復 活
 かいをもとにもふくかつせしめたまえり。
 界 偕 復 活 給
 ひとのせいはいはなんぢをかみとしてほめう
 人 性 爾 神 讃 歌
 たい、しはほろぼされ、アダムはたのし
 死 滅 樂
 み、エヴァはいまなわめよりとかれ
 今 縛 釋



司祭) (黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有
となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾
り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に
痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が
聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる
ものとなしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の
仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈
と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖
なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
に、



【 聖三祝文 】





よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
 なるじょうせい のものよ、われらをあわれ
 めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
 せいなるじょうせい のものよ、われらをあわれ
 めよ。こうえいはちちとことせいしん
 にきす、いまもいつもよよに、アミン。
 せいなるじょうせい のものよ、われらをあわれ
 めよ。せいなるかみ、せいなるゆう
 き、せいなるじょうせい のものよ、われらを
 あわれめよ。

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、)

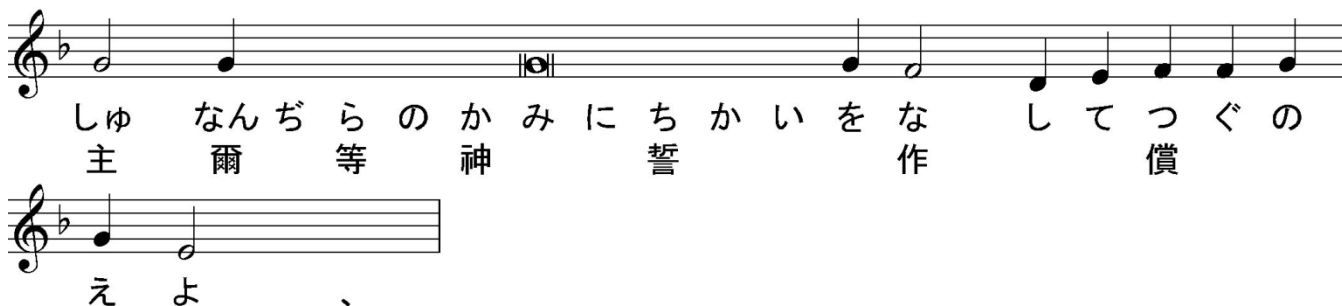
【 プロキメン 提綱 主日第8調 及び顯榮祭第4調 】

司祭) つつし き しゅうじん へいあん
 慎みて聽くべし、衆人に平安、

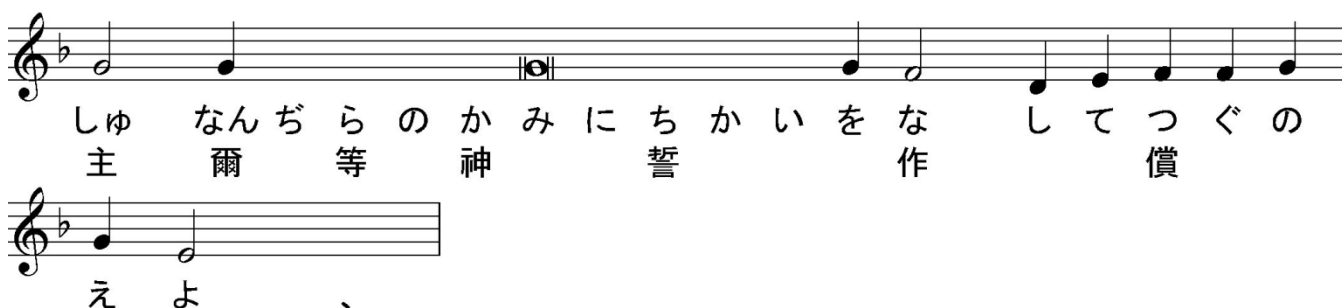
誦經) なんぢ しん
爾の神にも、

司祭) えいち
睿智、

誦經) プロキメン、 しゅなんぢら かみ ちかい な つぐの
主 爾 等 神 に 誓 を 作 して 償 えよ、



誦經) かみ し そのな おおい
神はイウデヤに知られ、其名はイズライリに 大 なり、



誦經) しゅ なんぢ しわざ なん おお みなちえ もつ つく
主よ、 爾の工業は何ぞ多き、皆智慧を以て作れり、



【 アポストロス 使徒經 131 端 コリント前書 4 章 9 節～16 節 及び 65 端 聖使徒ペトルの後公書 1 章 1 1～1 9 節 】

司祭) えいち
睿智、

誦經) せいしと じん たつ ぜんしょ よみ
聖使徒パウエルがコリント人に達する前書の讀、

司祭) つつし き
謹みて聽くべし、

誦經) けいてい われおも かみ われらしと すえ もの な し さだ もの ごと あらわ
兄弟よ、我意うに、神は我等使徒を末なる者と爲して、死に定められたる者の如く顯
せり、我等は世界の爲、天使等及び人々の爲に、觀玩と爲りたればなり。我等はハリスト

スに因^よりて愚^ぐなり、爾^{なんぢら}等はハリストスに於^{おい}て智^ちなり、我等^{われら}は弱^{よわ}く、爾^{なんぢら}等は強^{つよ}し、爾^{なんぢら}等は
 榮^{えい}を享^うけ、我等^{われら}は辱^{はづかしめ}に處^おるなり。今^{いま}に迄^{いた}るまで我等^{われら}は飢^うえ、渴^{かわ}き、裸^{はだか}裡^うになり、撻^う
 れ、定^{さだま}り居^おる處^{ところ}なく、勞^{ろう}して手^てづから工^{わざ}を作^なす。我等^{われらのし}詈^{しゅくふく}られては祝^{きんちく}福^しし、窘^{きんちく}逐^しせ
 られては忍^{しの}び、謗^{そし}られては禱^{いの}る、我等^{われら}は世^よの汚^{あくた}穢^{ごと}の如^{しゅう}く、衆^ふの踐^{ところ}む所^{ちり}の塵^ご垢^ごの如^ごくせ
 られて今^{いま}に至^{いた}れり。我^{われ}は爾^{なんぢら}等を愧^{はづか}しめんと欲^{ほつ}して此^{これ}を書^{しよ}するに非^{あら}ず、乃^{すなわち}我^あが愛^{あい}す
 る所^{ところ}の子^この如^{ごと}く爾^{なんぢら}等を訓^{おし}うるなり。蓋^{けだし}爾^{なんぢら}等^{なんぢら}には、ハリストスに於^{おい}て萬^{ばん}人^{にん}の師^し傅^ふあり
 と雖^{いえども}、多^{おほ}くの父^{ちち}あるなし、我^{われ}ハリストス イイスに於^{おい}て福^{ふく}音^{いん}を以^{もつ}て爾^{なんぢら}等^うを生^うみたれ
 ばなり。故^{ゆえ}に我^{われ}爾^{なんぢら}等^{もと}に求^{われ}む、我^{われ}に效^{なら}いて、我^{われ}のハリストスに於^おけるが如^{ごと}くせよ。

(比較用 口語訳) 神はわたしたち使徒を死刑囚のように、最後に出場する者として引き出し、こうし
 てわたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ。わたしたちはキリストのゆえに愚
 かな者となり、あなたがたはキリストにあつて賢い者となっている。わたしたちは弱い、あなたがた
 は強い。あなたがたは尊ばれ、わたしたちは卑しめられている。今の今まで、わたしたちは飢え、かわ
 き、裸にされ、打たれ、宿なしであり、苦勞して自分の手で働いている。はずかしめられては祝福し、
 迫害されては耐え忍び、ののしられては優しい言葉をかけている。わたしたちは今に至るまで、この世
 のちりのように、人間のくずのようにされている。わたしがこのようなことを書くのは、あなたがたを
 はずかしめるためではなく、むしろ、わたしの愛児としてとすためである。たといあなたがたに、キ
 リストにある養育掛が一万人あつたとしても、父が多くあるのではない。キリスト・イエスにあつて、
 福音によりあなたがたを生んだのは、わたしなのである。そこで、あなたがたに勧める。わたしになら
 う者となちなさい。

誦經) 兄^{けいてい}弟^{ます}よ、益^{ます}勉^{べん}勵^{れい}して、爾^{なんぢら}等の召^めされし事^{こと}、及^{およ}び選^{えら}ばれし事^{こと}を堅^{けん}固^こにせよ、此^{これら}等を
 行^{おこな}いて、永^{なが}く躓^{つまづ}かざらん。蓋^{けだし}此^こくの若^{ごと}くば、爾^{なんぢら}等に我^{われら}等の主^{しゅ}救^{きゅう}主^{うしゅ}イイススハリス
 トスの永^{えい}遠^{えん}の國^{くに}に入る恩^{いん}惠^{けい}は裕^{ゆた}に加^{くわ}えられん。故^{ゆえ}に爾^{なんぢら}等^{これ}此^しを知^{かつ}り、且^{かつ}既^{すで}に受^うけたる
 眞^{しん}實^{じつ}に堅^{かた}められたれども、我^{われ}は恒^{つね}に爾^{なんぢら}等^{これら}の事^{こと}を記^き念^{ねん}せしむるを怠^やめざらん。我^{われ}は
 此^この幕^{まく}に在^ある時^{とき}、此^この記^き念^{ねん}を以^{もつ}て爾^{なんぢら}等^{はげ}を勵^{とう}ますは、當^{とう}然^{ぜん}の事^{こと}なりと思^{おも}えり、蓋^{けだし}我^{われ}は
 我^わが幕^{まく}を脱^{だつ}せんこと^{ちか}の近^しきを知る、我^わが主^{しゅ}イイススハリストスの我^{われ}に示^{しめ}ししが如^{ごと}し。然^{しか}れ
 ども我^{われ}は我^わが去^さらん後^{のち}にも爾^{なんぢら}等^{つね}の常^{これら}に此^{きねん}等を記^{つと}念^{けだし}するを勉^{めん}。蓋^{たぐみ}我^{われ}等は、巧^{たくみ}
 なる虚^{きよ}説^{せつ}に從^{したが}いて、爾^{なんぢら}等に我^わが主^{しゅ}イイススハリストスの能^{のう}力^{りよく}と降^{こう}臨^{りん}とを告^つげしに非^{あら}

ず、^{すなわちそのいこう}乃^{した}其^み威光^{もの}を親しく見たる者として然せり。蓋^{しか}至大なる光榮より聲の彼に來り
 て、此は我の至愛の子、我が喜^{よろこ}べる者なりと曰いし時、彼は神父より尊貴と光榮とを
 受けたり。天より來りし此の聲は、我等彼と偕に聖なる山に在る時、之を聞けり。且我
 等に更に確なる預言者の言あり、爾等が之を暗き處に耀く燈として、天明
 け、晨星の爾等の心に出づるに至るまで顧みるは善し。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、
 確かなものにしてください。そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。こうして、わたしたちの主
 たる救主イエス・キリストの永遠の国に入る恵みが、あなたがたに豊かに与えられるからである。それだ
 から、あなたがたは既にこれらのことを知っており、また、いま持っている真理に堅く立っているが、
 わたしは、これらのことをいつも、あなたがたに思い起させたいのである。わたしがこの幕屋にいる間、
 あなたがたに思い起させて、奮い立たせることが適当と思う。それは、わたしたちの主イエス・キリス
 トもわたしに示して下さったように、わたしのこの幕屋を脱ぎ去る時が間近であることを知っているか
 らである。わたしが世を去った後にも、これらのことを、あなたがたにいつも思い出させるように努め
 よう。わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを、あなたがたに知らせた時、わたしたちは、巧
 みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだからである。イエス
 は父なる神からほまれと栄光とをお受けになったが、その時、おごそかな栄光の中から次のようなみ声
 がかかったのである、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。わたしたちもイエス
 と共に聖なる山にいて、天から出たこの声を聞いたのである。こうして、預言の言葉は、わたしたちに
 いっそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照す
 まで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい。

【 アリルイヤ 主日第8調 及び顯榮祭第8調 】

司祭) ^{なんぢ}爾^{へいあん}に平安、

誦經) ^{なんぢ}爾^{しん}の神にも、

司祭) ^{えいち}睿智、

誦經) アリルイヤ、^{きた}來りて^{しゅ}主に^{うた}歌い、^{かみわ}神我が^{すくい}救^{かため}の防固に^よ呼ばん、



誦經) ^{さんよう もつ そのかんばせ まえ すす うた もつ かれ よ} 讃 揚を以て其 顔 の前に進み、歌を以て彼に呼ばん、



誦經) ^{てん なんぢ ぞく ち なんぢ ぞく} 天は 爾 に屬し、地も 爾 に屬す、



司祭) (黙誦: ^{ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ し} 人を愛する主 宰よ、我が 心 に神を知る智慧の 淨 き光 を輝 かし、我が思

^{ねん め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ} 念の目を啓きて、爾 が福 音の 教 を悟らしめ給え、我が衷に 爾 の福たる 誠

^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ} を畏るる 畏 をも入れて、我等が 悉 くの肉 體の慾を踏み、凡そ 爾 の 喜 ぶ

^{ところ おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ} 所 を思い且つ 行 いて、屬 神の生 活を過ぐるを致させ給え、蓋 ハリストス神

^{なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいし} よ、 爾 は我が 靈 と 體 との光 照 なり、我等 爾 と 爾 の無原の父と至聖至

^{ぜん いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ} 善にして生命を 施 す 爾 の神とに光 榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。)

【 エヴァンゲリオン 福音 經 マトフェイ福音書 72 端 17 章 14～23 節 及びマトフェイ福音書 70 端 17 章 1～9 節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん} 睿智、 肅 みて立て聖 福 音 經を聴くべし、衆 人 に平 安、



司祭) ^{でん せいふくいんけい よみ} マトフェイ傳の聖 福 音 經の讀、





は なん ぢ に き す 。
爾 歸

司祭) ^{つつし}謹 ^きみて聴くべし、^か彼の^{ときあるひと}時或人^つイイススに就きて、^{ひざまづ}跪 ^いきて曰えり、^{しゅ}主よ、^わ我が^こ子を ^{あわれ}憐

^{かれてんかん}め、^{わづら}彼癩癰を ^{くるし}患いて、^{はなはだ}苦むこと ^{けだししばしば}甚し、^{たお}蓋 ^{またしばしば}屢火に倒れ、^{たお}亦 ^{われ}屢水に倒る、我

^{これ}之を ^{たづさ}攜えて、^{なんぢ}爾の ^{もん}門徒に就きたれども、^つ彼等 ^{かれらいや}醫すこと ^{あた}能わざりき。イイスス ^{こた}答えて曰え

^{ああしん}り、^{もと}噫 ^よ信なき悖れる世や、^{われいつ}我何時までか ^{なんぢら}爾等と ^{とも}偕に在らん、^あ何時までか ^{いつ}爾等 ^{なんぢら}を忍ばん、^{しの}

^{かれ}彼を ^{ここ}此に ^{われ}我に ^{たづさ}攜え ^{きた}來れ。イイスス ^{まき}魔鬼を ^{いまし}禁め ^{まきい}たれば、^{そのここ}魔鬼 ^{とき}出でて、^い其子 ^い斯の時より愈え

^{そのとき}たり。其時 ^{もん}門徒 ^{ひそか}私にイイススに就きて曰えり、^つ我等 ^いが之 ^{われら}を逐い出 ^{これ}す能わざりし ^おは何 ^{いだ}の故 ^{あた}

^なぞ。イイスス ^{かれら}彼等に ^い謂えり、^{なんぢらしん}爾等 ^{ゆゑ}信なき ^{けだしわれまこと}故なり、^{なんぢら}蓋 ^つ我 ^{なんぢら}誠に ^も爾等に ^い語ぐ、^い爾等 ^い若し

^{からしだね}芥種 ^{ごと}の如き ^{しん}信 ^こあらば、^{やま}此の山に、^{ここ}此より ^{かしこ}彼 ^{うつ}に移れ ^いと言うとも、^{うつ}移らん、^{またなんぢら}又 ^{いつ}爾等に ^い一

^{あた}も ^{なか}能わざること ^こ勿らん。此の ^{たぐい}類 ^{いた}に至りては、^{きとう}祈 ^{ものいみ}と ^よ齋 ^いとに由らざれば ^い出でざるなり。ガ

^あリ ^{とき}レヤに在る時、^{かれら}イイスス ^い彼等に ^{ひと}謂えり、^こ人の子 ^{ひとびと}は人 ^て人の手に ^{わた}付されん。且 ^{かつかれ}彼 ^{ころ}を殺さん、

^{しこう}而 ^{だいさんじつ}して ^{かれふかつ}第三日に ^い彼復 ^い活せん。

(比較用 口語訳) ひとりの人がイエスに近寄ってきて、ひざまずいて、言った、「主よ、わたしの子をあわれんでください。てんかんで苦しんでおります。何度も何度も火の中や水の中に倒れるのです。それで、その子をお弟子たちのところに連れてきましたが、なおしていただけませんでした」。イエスは答えて言われた、「ああ、なんという不信仰な、曲った時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまであなたがたに我慢ができようか。その子をここに、わたしのところに連れてきなさい」。イエスがおしかりになると、悪霊はその子から出て行った。そして子はその時いやされた。それから、弟子たちがひそかにイエスのもとにきて言った、「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか」。するとイエスは言われた、「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言え、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。しかし、このたぐいは、祈と断食とによらなければ、追い出すことはできない」。彼らがガリラヤで集まっていた時、イエスは言われた、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、そして三日目によみがえるであろう」。

司祭) ^か彼の ^{とき}時、^{たづさ}イイススは ^{ひとりかれら}ペトル、^{ひき}イアコフ、^{たか}イオアンを ^{やま}攜え、^{のぼ}獨 ^い彼等を率いて、^い高き山に ^い登

^{かれら}り、^{まえ}彼等の ^{かたち}前にて ^か容 ^{そのおもて}を變えたり、^ひ其 ^{ごと}面 ^{かがや}は日 ^{そのころ}の如く ^{ひかり}耀 ^{ごと}き、^{しろ}其衣 ^いは光 ^いの如く ^い皎 ^いくな

れり。視よ、モイセイ 及びイリヤ 現れて、彼と與に語れり。時にペトル イイスに謂えり、
 主よ、我等此に居るは善し、爾 若し欲せば、我等此に 三 の 廬 を建てて、一 は 爾 の
 爲、一 はモイセイの爲、一 はイリヤの爲にせん。彼が尚言う時、視よ、光れる雲は彼
 等を蓋い、且 雲より聲ありて云う、此は我の至愛の子、我が喜べる者なり、彼に聽け。
 門徒聞きて俯伏し、懼るること 甚し。イイス就きて、彼等に觸れて曰えり、起きよ、懼
 る勿れ。彼等其目を擧げて、獨 イイスの外に誰をも見ざりき。山を下る時、イイス
 彼等に 戒めて曰えり、人の子が未だ死より復活せざる先には、見たる事を人に告ぐる
 勿れ。

 (比較用 口語訳) イエスはペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。
 ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変わり、その顔は日のように輝き、その衣は光のように白く
 なった。すると、見よ、モーセとエリヤが彼らに現れて、イエスと語り合っていた。ペテロはイエ
 スにむかって言った、「主よ、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。もし、おさしつ
 かえなければ、わたしはここに小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセの
 ために、一つはエリヤのために」。彼がまだ話し終えないうちに、たちまち、輝く雲が彼らをおおい、
 そして雲の中から声がした、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け」。
 弟子たちはこれを聞いて非常に恐れ、顔を地に伏せた。イエスは近づいてきて、手を彼らにおいて
 言われた、「起きなさい、恐れることはない」。彼らが目をあげると、イエスのほかには、だれも見
 えなかった。一同が山を下って来るとき、イエスは「人の子が死人の中からよみがえるまでは、い
 ま見たことをだれにも話してはならない」と、彼らに命じられた。



主よ、光栄はなんちにき歸し、光栄
 はなんちにき歸す。

※聖体礼儀③ 〜